

論文の書き方と「医療」への投稿

縦山 幸彦[†]第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 4 (229–233) 2024

要旨

論文にすると医中誌などで検索されて多くの人に内容が共有される。初めて論文を書くには症例報告がよいとされ、日常診療の落とし穴といった有益な情報を提供する。症例報告は稀さよりどんな臨床的意義があるかが大事で、抄録、緒言、症例記述、考察と結論で構成され、緒言では本例に注目の理由、考察と結論では症例の新規性と学ぶ点を述べていく。原著論文となりうる研究を行うにはまず指導者を見つけることが大事である。研究には実行可能性と新規性が大切で、先行論文を十分読んで何が明らかでないか調べる必要がある。研究の出発点は日常診療での疑問となるが、最初から1人で研究の立案は難しく、指導者と相談するとよい。そして研究結果を解析するため統計解析を学ぶには最低限の用語を覚えておき、指導者に教えてもらうのが現実的である。原著論文は抄録、緒言、方法、結果、考察、結論の順で書き、抄録を読めば論文の全体像がわかるようにし、緒言は先行研究でどこまで明らかで解決すべき課題から目的を明示する。方法は研究デザイン、対象、倫理的配慮と統計手法を述べ、結果は淡々と事実を記述し、主要結果は図とし、情報量が多い結果は表にするとよい。考察は先行研究との比較、結果の解釈、研究限界、結論から成るが、鍵となる結果を冒頭に記載し、その上で先行研究と比べて何が新しいか、臨床的意義を述べ、結論は限界を踏まえて書く。雑誌「医療」は昭和21年創刊のすべての医療職を対象とした国立医療学会誌で、会員の医療レベル向上と研究促進を目的とし、日常診療に役立つ情報を掲載している。オリジナルデータの質の高い論文を原著とするが、少数例のpreliminaryのものは短報、一例報告は症例報告として採用している。日常診療の経験を元にして研究成果を論文で同じ職種の人に広く知らせていただきたく、雑誌「医療」への投稿をお待ちしている。

キーワード 症例報告, 原著論文, 統計解析

はじめに

論文にすることで医中誌やPubMedなどで多くの人に検索されてその内容が共有され、日常診療の経

験を元にした有益な情報を同じ職種の人に広く知らせることができる。論文執筆は研究の最終作業で論文掲載をもって研究が成功したといえる。論文を書くことで指導医との議論、文献検索、執筆、さらに

国立病院機構東京医療センター 循環器内科 [†]医師
著者連絡先：縦山幸彦 国立病院機構東京医療センター 副院長 国立医療学会誌「医療」編集委員長
〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
e-mail: momiyama.yukihiko.mr@mail.hosp.go.jp
(2024年3月19日受付 2024年8月2日受理)
How to Write Procedures in Writing and Submitting a Paper to “IRYO”
Yukihiko Momiyama NHO Tokyo Medical Center
(Received Mar. 19, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)
Key Words: case report, original article, statistical analysis